



パパの育児休業 子どもの成長と共に親育ち

〈サロン・あべの〉2月の出会い

念しようと思う・・・といったと

きの職場以外の周りの人たちの

大方の反応はほとんどが驚きと

半信半疑の入り交じった「エ

エッ!」「まじかヨ?」でした。

平成19年度厚生労働省調査の

育児休業取得率は女性89・7%、

男性1・56%で、前回平成17年度

の調査の女性は72・3%、男性は

0・50%に比べて、女性で17・

4ポイント、男性で約3倍と、男

女とも大幅に上昇しているもの

の、男性の育児休業取得率は依

然として低い水準にあります。

これからみても「エエッ!」「ま

じかヨ?」の反応が分かる気が

します。

平成21年1月から3月までの3

力月間、会社を休んで、育児に専

自身休業を取るまでは、育児

%。ただし、平成22年3月31日ま

いる場合、休業前月額賃金の10

(復職後、6カ月以上雇用されて

まで、休業前月額賃金の30%)

と、「育児休業者職場復帰給付金

業基本給付金(子が1歳になる

のとして雇用保険から「育児休

場合が多いです。それを補うも

与は支給されないか減額される

中には、勤務の実態に基づき給

乗せ規定を設けられている場合

もあります。育児休業の期間

により就業規則などで独自の

できる休業のことです。事業所

る労働者が法律に基づいて取得

定められたもので、子を養育す

の福祉に関する法律」によって

育児又は家族介護を行う労働者

定された「育児休業、介護休業等

育児休業とは、平成3年に制

とは否めません。

ます。そのものの認識が低いこ

にほとんどの人もそうだと思

休暇と想像していたし、想像する

では暫定的に20%支給)を受け
ることができません。

なぜ育児休業を利用したのか

職場では、先輩が育児休業を
利用していたが、自分の知って
いる範囲では、制度があっても
男性が育児休業を利用するのは

ほとんどない状況でした。かね
がね、夫婦の子である以上ふた
りして育てるのが当然で、妻ま

かせの育児はしたくない、とい
う思いを強く持っていました。

そして妻から「育休してみたら」
の一言も、取得しようとする私
の背中を強く押してくれました。
ところがいざ取得するとなると、

とはいえ、実収入が
減ってしまうこと。

拭してくれたのは、
男性が育休を取って

いない人が多い状況
にもかかわらず職場
の人たちの理解があ
りました。職場の女
性からは「大変だけ

いろんな気が
かり、不安が
頭をよぎりま
す。まず第1
は仕事のこと
で周りに負担
をかけてしま
うという思い。
第2に1人で
24時間毎日の
育児が本当に
できるのか。
そして育休を
取得すること
で補いがある

毎日の育児

今年1月育児休業に入り、ほ
んまの育児が始まりました。朝
起きて夜寝るまで、別表のよう
な1日の流れが毎日続きます。

少しは自分の時間が取れるだろ
うと想像していたのですが、
まったく最初のイメージと違い
自分の時間がありません。子ど
もと図書館に行ったりはするの
ですが、どうしても外出の機会
が限られ、コミュニケーション

1日の流れ

- 7:30 妻からの伝達事項確認(食事と
買い物、その他)と見送り
- 8:00~10:00 息子の起床・着替え・朝食(いっ
しょに食べることが多い)
- 10:00~12:00 部屋の清掃や洗濯、子どもと遊ぶ
(または昼寝)
- 12:00~13:00 昼食
- 14:30~17:00 昼寝(添い寝したり、自分の時
間を過ごす)、散歩兼買い物
- 18:00~19:00 夕食・妻の帰宅
(義母が訪問してくれる)
- 20:30 入浴
- 21:30 就寝(寝かしつける。
いっしょに寝たり、24:00ごろ
まで自分の時間)



の範囲も狭まり気持ちが落ち込みストレスがたまることもあります。

これも、子どもが新しい言葉話したり、できることが増えたり、日々成長する姿を見る欲びで帳消しになります。

私が思う「男性の育児参加」

育児休業を取って2カ月、山ほど新しい体験をし、思うところもでてきました。

男性の育児への参加の度合い（協力的かどうか）の基準や評価は夫婦間や各人の尺度であり、男性だから、女性だから、私たちの時代は、だった、の決めつけの価値観ではないと思います。

自分がベビーカーに子どもを乗せて黙々と散歩しているときより、妻の方が周囲の人とのちよつとした会話が上手で、妻

のこうしたコミュニケーション術を学んでいます。地域との関係作りも子どもを介して地域とつながり、父親だけの集まりに膨らんでいってもいいのではな

いかと思います。
change_jpn/taikenki/h20/index.html
ハローワークインターネットサービスマニュアル
www.hellowork.go.jp/html/info_1_h3d.html

*参考

内閣府 <http://www8.cao.go.jp/wlb/>

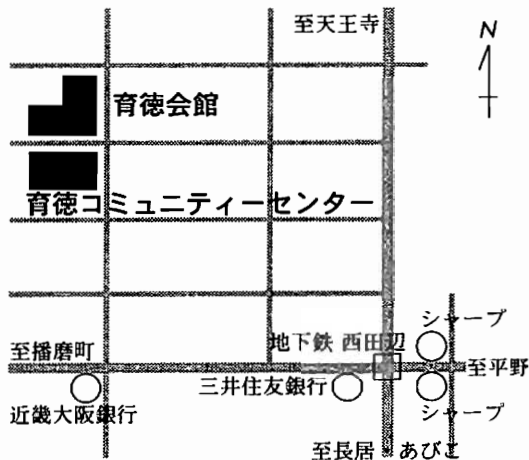
父親が積極的に「育児」に関わることは、「育自」に繋がる

りでなく、家族にとっても、企業にとってもメリットが大きい。あべのの2月の出会いでした。（参加者17名）山村貴司

お知らせ

＜サロン・あべの＞4月の出会い

内容…「ぼかぼかユニット太陽」
春の演奏会
お客さま…上月陽平さん（パーカッション）
笹山太一さん（ギター）
日時…4月18日（土）午後1時～4時
場所…育徳コミュニティセンター2階
研修室（スロープ・車いすトイレ有）
大阪市阿倍野区阪南町5-15-28
TEL 06-6621-1901
最寄り駅＝
地下鉄御堂筋線「西田辺」（エレベーター有）下車すぐ
会費…なし
問い合わせ先…
TEL 06-6691-1028（富田慶子）



54



邦子、 …ん歳の手習い。

デニスさんの自立へのチャレンジ②

視覚障害者のデニスさんは、それまで自分が経験したことのない自然科学を勉強してみたいと思い、1979年にパークレー大学の大学院に入りました。しかし、そこには盲人に対する差別があり、その人達がデニスさんを受け入れてくれないことを感じました。

彼は入学してすぐに、学部生の単位で、生きていく細胞を扱う化学の単位をとらなければいけません。彼はいつものように授

業に出て、アシスタントを連れて実験室に行きました。そのアシスタントは、彼の目となり、手となって、実験をしました。しかし、その科目の教授は、実際に自分の目で見て、自分の手でする実験でなければ意味がないという理由で単位をくれませんでした。結局、その単位に替えて自分1人でやる自由教科の単位だけしかもらえませんでした。彼は、「それはものすごい差別です。自分がどうするとういう主観的なことではなく、実際に起ったことや目に見えることを客観的に分析してこういうという科学の分野で、最初から差別があり、主観的に何かできなければ勉強にならない」という考え方をするということは、私にとっては皮肉なスタートでした」と語っています。

しかし、最初から彼を受け入れた何人かの教授もいました。彼のアドバイザーである71歳のハンガリー系の教授は、初めからとても親切ですと励ましてくれているということでした。しかし、「その先生ですら、ここまできたんだからみてみましょうという態度ですから、他の教授や科学者の理解はまだまだ

これからです」と、彼は語っています。

また、実際に研究上の難しさもありました。彼は、テレビで、貝の歴史を研究している視覚障害者の教授がいることを知りました。その教授は、貝をさわって、中や外がどうなっているのかを理解し、貝の歴史を研究している人でした。その番組を見て、彼はトウモロコシの成長なら手で触ってみれば分かるのではないかと思い、トウモロコシの引力と重力の関係を調べようと研究を始めました。しかし、それは簡単ではありませんでした。彼は、「それは浅はかな考えでした。この分野に入ってみると、しよつちゅう写真を撮り、絶えず、正確な計量が必要なので、とても触るぐらいで分かると思ったら大間違いで、助けが必要でした。教授になると、研究員やアシスタントを捜すのは簡単でしょうが、大学院の学生は、全部自分でやることになっていきます。学部生の手伝いに頼ることは

サロンの一筆箋

一冊一〇〇枚綴一五〇円

できますが、学部生は長くないので、満足いく研究はなかなかできません。本当の研究は先生になって人を使えるようになってからではないかと思えます」と語っています。

デニスさんは12歳の時に目が見えなくなり、それ以後、学校ではテープの朗読サピスや盲人用の本の貸し出しを利用してきました。大学院では研究上の困難を経験して、10年目にして博士号まで後少しというところまで来られたのは、第1には、大学が助手を雇うお金とたくさんの本を読むための朗読者のお金を出してくれたことでした。また、大学の助成金で買った音声の出るコンピュータを使い、大学以外の経済的な助成金も利用して研究を続けることができたことも大きかったようです。当時の日本では、理系の大学に障害者が入学することだけでも、様々な差別が存在し難しかったので、デニスさんの学問上のチャレンジは、障害者の教員であった私の夫にとって、すばらしいと思えたようでした。

(定藤邦子)

「Maisweden留学記」はお休みです。

晴れのち晴れ-126-

稲垣恵雄

□春の小川

♪ 春の小川はさらさらいくよ
岸のすみれやれんげの花に
姿やさしく色うつくしく
咲けよ咲けよとささやきながら

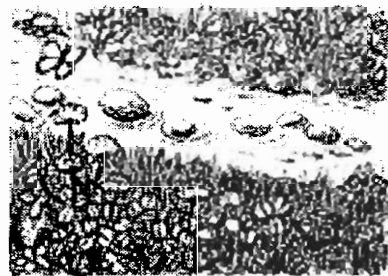
上記は小学唱歌の「春の小川」である。本紙の石田編集長が「寄り道」(昨年の11月号)でも書いておられたが、この「春の小川」は東京・渋谷を流れていた河骨川がモデルで、国文学者の高野辰之氏が作詩されたと伝えられている。

3月に入っても川の水はまだまだ冷たいが「春の小川」と聞いただけで何とも言えない温もりを感じるのである。そして「春の小川」の歌詞のどの行を見ても春のイメージがはっきりと浮かんでくる。

ところで評論家のA氏が音楽雑誌に「春の小川」の3行目の歌詞に“姿やさしく色うつくしく”とあるが、これはすみれやれんげの花に諭すと同時に自分自身にも言い聞かせているのである」と書いておられた。

私はA氏のこの一文を読んでハッとさせられた。それというのも他人には「もっと優しくなれ」とか「きれいなカッコせんとあかん」とよく言うが、いざ自分のこととなると少しも気にしないのである。

だがA氏の一文を読んでから他人にアレコレ言う前に、まず自分はどうかをふり返り、間違っておれば正すように心がけているのである。



グループホームの選択



Mi

母が電話口で泣いていることが多くなった。いろんなことがわからなくなつた父をグループホームに置いてきたことを辛く思っているのだろう。どう説明してもわからないだ

ろうから、デイサービスのあとに父には「しばらく、ここで泊まっていほしい」という言葉だけを職員に伝えてもらった。

運の悪いことに、グループホームに入所してしばらくしたら、父はインフルエンザにかかってしまった。予防注射をしていたからか本人には大事なかったものの、他の利用者に感染しないようにと個室に閉じこめられた。中からは開けられないように鍵をかけてしまったので、牢獄のようなものだっただろう。「監禁するつもりか」と、たいへんな剣幕だったそうだ。しかし、父の立場からすれば、それも無理はないのである。

そしてインフルエンザが完治し自由にでられるようになってから、しばらくたつてのと、父はふらりと一人で施設を出て行ってしまふ。冬の冷たい雨の日、傘もコートもなしで出てしまった。施設職員が懸命に探し、警察に捜索を頼んでも見つからない。そんな数時間が過ぎてから母は私に電話してきた。鳴

咽（おえつ）する母の声を、私は生まれて初めて聞いたような気がした。片足には靴もなく、雨に濡れて震えている父が見つかったのは、もう夜になってからのことだった。

日常にあったことを話しながら、「ホンマ、おかしいなあ、もう、笑ろて、笑ろて」というのが母の口癖だった。そのあと、ハハハと明るく笑うのである。比較的健康に恵まれているのも、この陽気な性格のためだったのではと思う。幸いなことに私が子どものころは、母が怒っている顔は見たことがあつても、泣いた顔は見たことがなかった。その母がこのところ泣いていることが多いのである。

グループホームの選択はやむを得なかった。いつも通っているデイサービスの職員からグループホームの紹介があつたころ、母は夜中に突然「お前はいつたい誰や！」と叫ぶ父を見ている。そして母を認めることができず、「知らない人間といっしょにいるわけはいかない」と外出の用意をするのだが、帽子を二つ上からかぶるなど、その姿は異様だったという。夜中に出ていけば帰れなくな

る。なんとかなだめて家にいるようにさせたものの、母はほとんど一晩中眠れなかった。

「あのととき、もつと優しく言えば、そうならなかったかも」と母は、あとで考えもしたそうさだ。しかし限られた時間で働く専門の職員ならともかく、朝から晩までいっしょにいる家族が仏様でもあるまいし、完璧に四六時中「優しく接する」なんてできるはずがない。

グループホームに入って一カ月ほどたったある日、いつものようにホームを訪れていた母は、父を風呂場に連れていく。しかし入浴を嫌がる父は怒り出した。そして「皆のところに戻りたい」と言ったという。五十年以上連れ添った夫のその言葉を母はどういう思いで聞いただろう。目の前の妻とは別のところに父はもう住んでいた。「ああ、これで良かったんだ」と母は思ったそうさだ。それは一つの区切りになったのである。

もしも元気な父がどこかにいるとしたら、妻や子どもがしたこの決断を父は許してくれると思う。「ああ、もう、ええがな。心配かけたな」と言って、いつもの父のように少し照れながら静かに笑ってくれているように思うのである。

(知)

声で読書のお手伝い

音訳テープのご案内

音訳グループ「糸でんわ」のご協力で(サロン・あべの)紙第272号の音訳テープが出来ました。

■音訳テープ文庫

- (a) (サロン・あべの)紙は、第1号より第272号までそろっています。
- (b) (サロン・あべの)十周年記念誌「はあとが、はろー！」
- (c) 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)
- (d) 「ラジオたんば」放送「(サロン・あべの)平成7年5月の出会い」放送分(30分)
- (e) エッセー集「逃げた『ヨナ』～ボランティア活動の周辺～」(岡本栄一著＝糸でんわ音訳)
- (f) 「キミたちだけじゃ困るんだ～身障者だけで旅した十余年～」(山田誠1995・2・22著＝糸でんわ音訳)
- (g) 「金子みすずへの旅」(島田陽子著＝糸でんわ音訳DJ)
- (h) 「夕やけ空のオニヤンマ」(牧口一三著＝糸でんわ音訳)
- (i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著＝糸でんわ音訳)
- (j) 「セルフヘルプグループ」(岡知史著＝糸で

んわ音訳DJ)

- (k) 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修＝大阪市立天王寺図書館制作)
- (l) 「知らされない愛について」(岡知史著＝ぼけつと音訳)
- (m) 「愛 ひとり旅」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (n) 「奥田真祐美のシャンソン手帳」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳DJ)
- (o) 「もうちょっと知っとく? 私たちの阿倍野」(難波りんご著＝糸でんわ音訳DJ)
- (p) 「猫とシャンソン」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (q) 「ほんの少しの神に近い部分」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
- (r) 「勁くしずかに」(河野勝行編・著＝糸でんわ音訳)
- (s) 「たまごが ポン！」(稲垣恵雄著＝糸でんわ音訳DJ)
- (t) 阿倍野名所旧跡いろはがるた(猿田博＝糸でんわ音訳)
- (u) 交わりのなかで ～ホームヘルパー残像～(加藤みどりさんを偲ぶ文章を作る会著＝糸でんわ音訳)
- (v) 富田慶子出演の「ちょっといい話」(朝日放送05.6.26と05.9.18)の録音テープ
ご希望の方には、ダビング、または貸し出しをしますので、富田(☎06・6691・1028)まで。音訳の後のDJ印はディジー録音。

美智子のこんな話

岸田美智子

変わりましたよ！

「応益負担↓応能負担」

このコーナーで以前にも書かせていただきましたが、障害者自立支援法の考え方の最大の課題であった応益負担が、今回の与党のプロジェクトチームから出された応能負担に改正されることが決まりました。

全国の障害者団体から、多くの抗議行動があったこの応益負担の問題は、障害が重度になればなるほど、福祉サービスを多く使うが、それに応じてより負担も多くなるという問題がありました。食事やトイレ・お風呂などの、当たり前な生活をするために、なぜお金を払わなければならないのか？ 道を歩く

こと（ガイドヘルパー）にもお金を払ったりしなければならぬのか？ という障害者からの怒りの声が挙がりました。去年の暮れには、自立支援法そのものが、障害者の生存権を侵していると、訴訟問題にもなっていました。このような全国的な障害者運動の甲斐もあり、このような改正結果になったのは、大変良かったと私も思いました。でも、負担金の額は、現在通り残っていくそうです。ただ、一般世帯の負担額の上限である37200円の引き下げも、合わせて決定されたそうです。なので、負担金がなくなったわけではないのです。

そして、この間、障害者側のこのような運動に対して、介護保険の利用者や一般の市民から、介護保険では高齢者も同じ内容で、負担金を払っているのに、なぜ障害者は払わなくてよいのか、という見方が出てきました。私自身も単なる介助内容に対する負担のあり方だけの問題ならば、納得できると思いますが、はたしてこれだけで良いのか、という障害者の社会的な背景の違いや、障害者になった理由を個人の問題だけとして見てしま

う大きな課題が隠れていると思います。多くの障害者は未だに働く場すらなく、幼い頃から入所施設に閉じこめられている現状が、まだまだあります。この現状を抜きに応益負担の問題だけを解決しようとする、余計に本当の課題が何なのかを見えにくくしてしまうのではないのでしょうか。障害者は重度障害者を含めて、自分が納得して利用したサービスに対し、お金を払うことを嫌だと言っているわけだけではないのです。払えない生活しかなかった障害者の差別的な歴史があることを忘れないで欲しいと思います。皆さんは、どう思いますか？

ありがとうございました。

カンパ、切手・書籍・お茶菓子の寄贈、また、サロングッズの買い上げなどありがとうございます。

カスタネット、つくしの会、稲垣恵雄、岩田康夫、平岡太、山本敏子、和田保子、その他の方々。（敬称略）



4月はどこのサロンの、
どのテーマが
お気に入りですか。
いい出会いしませんか。

■「サロン淀川」4月の出会い

日 時：4月19日（日）午後1時30分～4時
内 容：果実酒のススメー季節に合わせて様々な
果実酒を作りませんかー
ゲ ス ト：川本明子さん
音楽ボランティア「にじの会」
会 費：なし
場 所：淀川区民センター「やすらぎ」
大阪市淀川区三国本町2-14-3
問い合わせ先：淀川区社協（ボランティア・ビュー
ロー） ☎ 06-6394-2900
E-mail：sorajii@iris.eonet.ne.jp

■「サロン・にしよど」4月の出会い

日 時：4月25日（土）1時30分～3時30分
集合場所と時間：「ふくふく」に午後1時30分
内 容：西淀川の歴史散歩～大和田を歩く～
昨年11月に「佃」のまちを歩き好評でした
ので、その続編として今回は「大和田」のまち
の歴史散歩です。当日は歩きやすい服装と靴で
起こしてください。
お客さま：稲垣泰平氏（歴史散歩の達人）
場 所：なにわ自転車道、子安身代わり延命地
蔵尊、大和田街道の石碑、神社仏閣など
会 費：なし
問い合わせ・申し込み先：
中本 ☎ 090-9864-9678

■「サロン「アイ」」4月の出会い

日 時：4月11日（土）午後1時30分～4時
内 容：私とゆっくり体操
出 演 者：田中美保子氏（視覚障害者ゆっくり体操
インストラクター）
会 費：なし
場 所：生野区在宅サービスセンター
「おかちやま」2階ボランティアルーム
大阪市生野区勝山北3-13-20

問い合わせ先：生野区社協（ボランティア・ビュー
ロー） ☎ 06-6712-3101
○お知らせ：サロン「アイ」だよりの音訳テープが
出来ます。ご希望の方は、西浦まで。
☎ 06-6757-8574

■「サロン・にし」4月の出会い

日 時：4月11日（土）午後2時～4時
内 容：廃油でアロマキャンドルを作ろう！
お 願 い：できればジャムなどの手頃なカラピンを
用意してください。ない方は手ぶらでお出
でください。
会 費：なし
場 所：西区在宅サービスセンター
「にしながほり」
大阪市西区新町4-5-14
☎ 06-6539-8075
問い合わせ先：宮脇淳 ☎ 090-3949-6973

■《てくてく・すみよし》4月の出会い

日 時：4月11日（土）午前11時、
集合場所と時間：地下鉄御堂筋線梅田駅改札口に
午前10時
内 容：神戸のハーバーランド遊覧船ツアー
ーモザイクガーデン3階でインド料理を食
べて後、水上バスで遊覧ー
会 費：1000円（食事代・交通費等は個人負担）
申し込み締切：4月8日（水）
申し込み・問い合わせ先：
山本篤江 ☎ 06-6692-8411
携帯090-5168-5977

■「サロン・つるみ」4月の出会い

日 時：4月5日（日）午後1時30分～4時
内 容：ヘルマンハープの調べ
ー曲目「荒城の月」他ー
ゲ ス ト：由布康二氏と福祉作業所センター
「たけのこ」の皆さん
場 所：鶴見区民センター3階
大阪市鶴見区横堤5-3-15
会 費：なし
問い合わせ先：鶴見区社協（ボランティア・ビューロー）
奥井 ☎ 06-6913-7070

■「サロンいたみ」4月の出会いはお休みです

絵がうたうー 絵とうたうー

童謡♪絵はがき

- ♪春
 - ・ 仰げば尊し
 - ・ 春よ来い
 - ・ 早春賦
 - ・ 春が来た
 - ・ どこかで春が
- ♪夏
 - ・ 花火
 - ・ 蛙の笛
 - ・ 金魚の昼寝
 - ・ たなばたさま
 - ・ 夏は来ぬ
- ♪秋
 - ・ 殖生の宿
 - ・ あめの町この町
 - ・ 村祭
 - ・ 紅葉
 - ・ 里の秋
- ♪冬
 - ・ スキー
 - ・ 冬の星座
 - ・ 冬景色
 - ・ たきび
 - ・ 冬の夜
- ♪冬Ⅱ
 - ・ ベチカ
 - ・ 雪
 - ・ 灯台守
 - ・ ちんちん千鳥
 - ・ かあさんの歌
- ♪汽車
 - ・ 汽車ポッポ
 - ・ 汽車ぼっぼ
 - ・ かもつれつしゃ
 - ・ 鉄道唱歌
 - ・ 汽車
- ♪川
 - ・ めだかの学校
 - ・ 花
 - ・ ローレライ
 - ・ 船頭さん
 - ・ 春の小川
- ♪花Ⅱ
 - ・ 野菊
 - ・ 野なかの薔薇
 - ・ ひらいたひらいた
 - ・ 夏の思い出
 - ・ 酸模(すかんぼ)の咲く頃
- ♪花Ⅰ
 - ・ チューリップ
 - ・ 庭の千草
 - ・ からたちの花
 - ・ この道
 - ・ さくら さくら
- ♪子ごも
 - ・ 背い目の人形
 - ・ モーツアルトの子守歌
 - ・ 1年生になつたら
 - ・ おべんとう
 - ・ 仲よし小道
- ♪お正月
 - ・ 1月1日(いちがついちじつ)
 - ・ お正月
 - ・ ひとめふため
 - ・ 正月のうた
 - ・ 凧風あがれ
- ♪母さん
 - ・ 母さんたずねて
 - ・ 肩たたき
 - ・ ないしょ話
 - ・ やさしいおかあさま
 - ・ ママのおひざ
- ♪海
 - ・ 椰子の実
 - ・ われは海の子
 - ・ 浜辺の歌
 - ・ うみ
- ♪5月
 - ・ 背くらへ
 - ・ 5月の歌
 - ・ 茶摘み
 - ・ コイノボリ
 - ・ 鯉のぼり
- ♪雨
 - ・ あまがさからかさ
 - ・ てるてる坊主
 - ・ 雨降りお月さん
 - ・ 雨
 - ・ あめふり

サロン20周年記念

童謡♪絵はがき

■5枚1組 ¥180

寄りみち



■童謡♪絵はがき・どこかで春が。厳しい冬も峠を越え、あちこちで生まれ始める春の息吹が歌いこまれた早春の香り漂う名曲として「早春賦」「春が来た」などとともに広く親しまれています。文字通り繊細な感覚で春の到来を捉えています。一方ではともすれば戦争、戦争という軍国主義に反対する声を聞き、平和への思いイコール春の訪れ、ということから書いたともいわれています。当初3番の歌詞は「山の三月 東風吹いて」でしたが、「東風」がむずかしいので、今は「そよ風」と改めているものもあります。これを「東風吹かばにほひをこせよ梅花 主なしとて春を忘るな」の主はどう聞くでしょう？(石)

＜サロン・あべの＞VOL. 273 発行：平成21(2009)年3月21日 定価¥100
 編集人：＜サロン・あべの＞運営委員会 表題：中西利香・筆 文中イラスト：石田美禰子
 事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方＜サロン・あべの＞
 TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941
 印刷：セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F TEL06-6719-8212
 ホームページ：http://pweb.sophia.ac.jp/oka/salon/「サロン あべの」でも検索できます